

平成28年度 神奈川県立大和西高等学校 不祥事ゼロプログラム 検証結果

	課 題	目 標	行動計画	検証内容・課題等
1	教育公務員としての倫理意識の徹底及び法令遵守意識の向上	「神奈川県職員行動指針」を踏まえ、職員の綱紀保持と服務規律の確保に向けて、公務員として絶対に不祥事を起こさないという法令遵守の意識と公私を問わず高い倫理観を持って職務を図る。	<ul style="list-style-type: none"> i 新聞記事など不祥事の事例を踏まえながら、朝の打合せや事故防止研修など様々な機会を捉えて、職員全体に注意を喚起し、職場全体の規範意識の向上を図る。 ii 新聞記事や職員啓発資料等を活用し、全教職員を対象とした法令遵守、服務規律保持に関する事故防止研修会を平成28年4月に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通知や新聞報道等を、朝の打合せで迅速に周知して、職員全体に注意を喚起した。 ・定期的に（月に1回以上）事故防止会議、研修等を実施して、校長・副校長・総括教諭等が不祥事防止職員啓発資料等を活用して、公務員としての自覚・モラルの向上等を図った。 ・副校長が、法令遵守、服務規律保持に関する研修及び注意喚起を4月、5月、10月、12月、平成29年3月に実施した。
2	セクハラ、わいせつ行為の防止	生徒に対するセクハラ、わいせつ行為、職員間における迷惑行為の根絶を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> i 全教職員を対象にした不祥事防止研修を実施し、職員の意識向上を図る。スクール・セクハラは重大な人権侵害にあたる行為であるという意識を高めるとともに、日頃から自らの言葉や行動に注意する態度を身につけ、人権感覚を磨く。 ii 教職員間の報告・連絡・相談が円滑に行われ、どんなことでも相談できる風通しの良い職場づくりに努める。 iii 職員啓発資料やチェックリスト等を活用し、全教職員を対象としたセクハラ、わいせつ行為防止に係る事故防止研修会を平成28年7月、11月に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の打合せ、事故防止会議等で、新聞記事及びチェックリストを活用し、注意を喚起した。 ・副校長が教育実習生に講話を行い、人権に配慮した対応の徹底を図った。 ・生活支援グループリーダー・管理職が、事故防止研修及び注意喚起を5月、7月、9月に実施した。
3	体罰、不適切指導の防止	<p>体罰は生徒の人権を損ない、生徒と教職員との信頼関係を根底から崩すものであるという意識を、職場全体に浸透させ、体罰や不適切指導の未然防止と根絶を目指す。</p> <p>常に人権に配慮した言動を心がけ、相手の立場や人格を尊重するよう努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> i 全教職員を対象とした事故防止研修を実施し、体罰や不適切指導が生徒の重大な人権侵害にあたる行為であるという意識を高め、人権感覚を磨くとともに、日頃から自らの言葉や行動に注意する態度を身につけ、職員間で互いに注意し合う。 ii 教育相談コーディネーター及びスクールカウンセラーとの連携を強化し、相談窓口を周知することで、生徒がどんなことでも気軽に相談できる相談体制を推進する。 iii 部活動において、複数の顧問が携わる体制づくりを構築し、顧問間の連絡・連携を密にして関わる意識を持って行動する。 iv 職員啓発資料やチェックリスト等を活用し、全教職員を対象とした人権研修会を平成28年6月に実施し、人権に配慮した言動に対する学習を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事・不祥事防止職員啓発資料を活用し、朝の打合せ、事故防止会議等で倫理意識の向上を図り、保護者・地域からの電話対応についても注意を喚起した。 ・ハンドブックを活用し、部活動インストラクターとの管理職面談を実施した。 ・相談窓口の周知、ケース会議の開催等により、生徒の相談体制を整備し、人権に配慮して支援に当たった。 ・教頭、5年経験者、生活支援グループ人権担当者が、研修を7月、9月、11月に実施した。

4	成績処理・進路関係書類の作成及び取扱に係る事故防止	成績処理、通知表、調査書など作成における事故の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> i 定期試験等において、監督者心得・環境整備・問題管理など注意点を徹底する。 ii 成績処理に係る業務遂行及び点検マニュアル等により、手順及び注意点を周知徹底するとともに、複数による業務遂行と複数によるチェック体制を徹底する。 iii 調査書作成に係る業務遂行及び点検マニュアル等により、調査書作成・指定校推薦等の校内選考・進路関係書類等に係る手順や注意点を周知徹底するとともに、複数による業務遂行と複数によるチェック体制を徹底する。 iv 全教職員を対象とした成績処理・調査書作成に係る事故防止研修会を平成28年6月、11月、平成29年2月に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援グループリーダー・管理職が、定期試験に係る注意点を朝の打合せ及び職員会議で周知し、事故防止を徹底した。 ・学習支援グループリーダー・キャリアガイダンスグループリーダーが、成績処理及び調査書に係る業務遂行・点検に係る研修を7月、12月、平成29年3月に実施した。
5	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報保護及び情報セキュリティへの理解を深め、個人情報や情報管理に係る事故の未然防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> i 職員啓発資料やチェックリストを活用し、全教職員を対象とした事故防止研修を平成28年4月、9月に実施し、情報管理について意識向上を図るとともに、適切な運用を徹底する。 ii 個人情報の登録・持ち出しは、必ず校長の許可を受けた上で行い、副校長、教頭は、文書やUSB管理・直帰について常に職員の注意を喚起する。 iii 成績処理、調査書作成、進路指導、奨学金等の各種業務において生徒のプライバシーに配慮した相談を実施する。 iv 成績・進路・奨学金等個人宛文書など各種書類・データの管理には充分注意を払い、机上やプリントアウトした個人情報、同姓の生徒の有無、文書と封筒の宛先の一致などを、複数の職員で確認し、紛失・誤廃棄・誤配付・ご配送を防止する。 v HP等の広報活動において個人情報・著作権に十分配慮する。 vi 携帯電話、電子メールの不適切に使用しないよう徹底し、携帯電話にはパスワードを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の打合せ、事故防止会議、研修等で、新聞記事及び不祥事防止職員啓発資料を活用し、個人情報の登録・持ち出し、USB貸出しに係る手続きと情報管理について周知し、個人情報管理簿等により徹底を図った。 ・校長、副校長が4月、5月、7月、10月、平成29年3月の事故防止会議で、注意を喚起した。 ・職員及び部活動インストラクターの不適切な携帯電話・電子メールの使用についても注意を喚起し、所定の手続き及びパスワード設定を徹底した。
6	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止と交通法規の遵守	交通マナーの遵守を徹底し、交通事故、酒酔い・酒気帯び運転など交通違反を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> i 安全運転の励行、飲酒した翌日の運転、交通法規の遵守について、朝の打合せや事故防止研修など様々な機会を捉えて、職員全体に常に注意を喚起する。 ii 交通事故に関する「ヒヤリハット事例」などを活用し、全教職員を対象とした事故防止研修を平成28年7月、12月に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長、副校長が、5月、12月に交通事故ゼロに向けた注意を喚起した。今後も安全運転の励行、飲酒した翌日の運転、交通法規の遵守について、注意喚起を継続していく。

7	会計事務等の 適正執行	<p>私費会計のトラブルや事故・不祥事を未然に防止する。</p> <p>備品の管理・点検を適正に行う。</p> <p>金庫等の定期的な点検を行い、安全で適切な現金管理に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> i 計画的な物品等の発注、適正な執行、確実な納品確認を徹底する。 ii 部活動会計は、徴収・決算報告通知、出納簿の整備、高額物品購入の際の見積り合わせの実施等、「私費会計事務処理の手引」に準じた処理を行う。 iii 校長・副校長・教頭・事務長は、私費会計について、会計処理や諸帳簿の適正執行等に関する調査を年に複数回、定期的実施する。また監査結果を受けて、改善すべき点がある場合には、迅速に対応する。 iv 校長・副校長・教頭・事務長は、毎年度末に私費執行状況の最終調査を行うとともに、来年度の予算案や会計処理上の指導を実施し、新年度の学校徴収金等運営協議会へ状況を報告する。 v 私費会計に係る通知を出すに当たっては、複数でチェックを行う。特に、同姓の生徒がいる場合には注意する。 vi 備品台帳は、紛失・破損等がないように点検を行う。 vii 現金をできるかぎり扱わないことを徹底するとともに、万が一現金を扱う場合には適正な管理を徹底する。 viii 全職員を対象とした研修会を平成28年4月、10月に実施し、適正な会計処理について徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26度から導入した部活動会計の統一帳票等を活用し、私費会計基準に準じて処理するよう改善を図るとともに、PTA会計監査の実施、管理職・事務長の定期的な諸帳簿点検を行い、適正な執行を徹底したので、財務事務調査で高評価を得た。 ・副校長が11月の職員会議で、財務事務調査・PTA会計監査の結果を周知し、適正な会計処理を徹底した。 ・管理運営グループリーダーが、朝の打合せや10月の事故防止研修等で、会計処理について周知を図った。 ・体育祭、文化祭に係る会計については、改善を図り、速やかに会計処理を行うことができた。
8	適正な業務執行体制の確立	<p>職員全員が各自の責任を自覚して職務を遂行するとともに、業務を組織として計画的に執行するための体制づくりを行い、複数で確認することにより、事故・不祥事を未然に防ぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> i 業務の遂行に当たっては、情報の共有と迅速なほう・れん・そうを心がけ、複数の職員によるチェックを確実に行う。特に、成績処理、調査書など進路関係書類の作成、入学者選抜に当たっては、細心の注意を払う。 ii 各グループリーダーは、グループ等の業務管理と進行管理を適切に行い、各進行管理に当たって、特定の職員の業務が過重となっていないかを点検し、業務の遅滞がある場合は調整を図る。 iii 副校長・教頭は各グループ等の業務の進行状況を把握し、適切な指導・助言を行う。 iv 業務の遅滞が発生しないように、年度末、年度当初の業務引き継ぎは、文書・資料等で確実にを行う。 vi 経験豊富な職員は、若手教員育成の観点を持ち、業務に関する経験が円滑に若手職員に引き継がれるようOJTを実施し、若手研修会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26、27年度と同様に今年度も、各グループの業務内容と進捗状況を検証し、より円滑な校務運営に向けて改善を図った。 ・業務については、引き続き、職員1人ひとりが各自の役割と責任を自覚して職務を遂行するとともに、迅速なほう・れん・そう、情報の共有、各グループの円滑な業務管理と進行管理、複数の職員によるチェックを確実に行っていく。

9	入学者選抜に係る事故防止	日程及び業務体制を確認し、複数の職員で確認することにより、事故・不祥事を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> i 入学者選抜業務マニュアルに従い、複数の職員で確実に業務・点検を行う。 ii 全職員を対象とした研修会を平成28年12月、平成29年1月に実施し、適正な入学者選抜実施に向けて徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜業務について、選抜業務マニュアルに基づいて、副校長・入選総務が平成29年1月、2月に事故防止研修及び担当者打合せを実施し、新入学者選抜に係る共通理解を図り、厳正に実施することができた。
10	校内施設・設備の安全管理と緊急時の迅速な対応	<p>校内施設・設備の安全管理を徹底し、緊急時を想定した対応を確認する。</p> <p>帰宅する際には戸締り、消灯、火の始末等を常に確認し、施設・設備の定期的な点検を行い、安全管理の徹底を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> i 施設・設備の定期的な点検を実施し、安全管理の徹底を図る。 ii 教室・特別教室等の戸締り、消灯、火の始末等を常に確認し、鍵の管理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に点検を実施し、安全管理の徹底を図った。 ・エアコンについて、副校長が職員会議で周知し、全職員で協力して電力削減に取り組み、節減した経費を更なる省エネと教育環境整備に当てることができた。 ・消灯、鍵の管理は充分とは言えないので、今後も各教室の管理者に注意を喚起していく。